

2024年度 医療経営管理学科 教育課程の編成・実施の方針の検証

2024年4月～2025年2月までにマイステップに登録されたデータを集計。

1. 登録状況

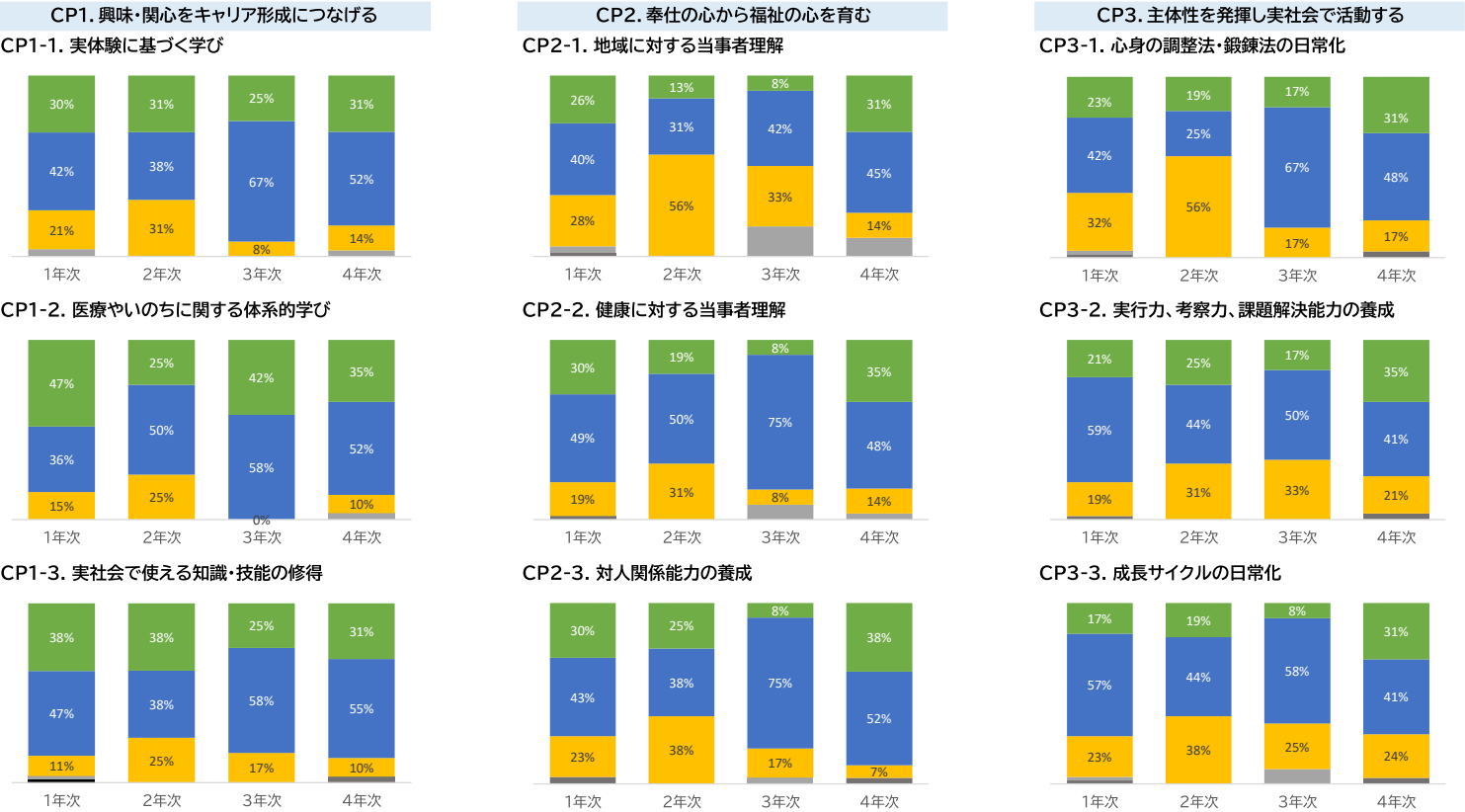
学年	登録数	登録率
1年次	53	73.6%
2年次	16	21.3%
3年次	12	16.7%
4年次	29	34.9%

2. 項目別・年次別平均値

		1年次		2年次		3年次		4年次	
項目		2024年	前年比	2024年	前年比	2024年	前年比	2024年	前年比
CP1-1	実体験に基づく学び	4.75	0.16	4.67	0.33	4.70	0.46	4.95	0.16
CP1-2	医療やいのちに関する体系的学び	5.16	0.09	4.73	0.27	4.81	0.60	5.05	0.12
CP1-3	実社会で使える知識・技能の修得	5.02	0.13	5.00	0.13	4.78	0.31	5.16	▲0.05
CP2-1	地域に対する当事者理解	4.76	0.08	4.53	0.03	4.78	▲0.36	5.00	▲0.03
CP2-2	健康に対する当事者理解	5.08	▲0.02	5.00	▲0.13	4.89	▲0.06	5.00	0.14
CP2-3	対人関係能力の養成	4.90	0.06	4.93	▲0.06	4.70	0.21	5.05	0.15
CP3-1	心身の調整法・鍛錬法の日常化	4.82	▲0.01	5.13	▲0.51	4.52	0.48	4.68	0.35
CP3-2	実行力、考察力、課題解決能力の養成	4.84	0.12	5.00	▲0.06	4.59	0.24	4.84	0.19
CP3-3	成長サイクルの日常化	4.82	0.03	4.93	▲0.12	4.52	0.15	4.74	0.23

3. 回答の分布

凡例 ■1:全くそう思わない ■2:そう思わない ■3:あまりそう思わない ■4:ややそう思う ■5:そう思う ■6:非常にそう思う



4. 結果の考察と今後の対応

本調査の結果、9割前後の学生が、教育課程の編成・実施の方針に沿った学びを意識し、享受していることが確認された。特に、1年生においては、昨年度に改善が見られた項目が高評価を維持しており、学修の定着が進んでいることが示された。

この背景には、認知症サポーター講座の受講、フィールドワーク、TBL等の学習、発表などの実践的な活動機会の充実が影響している可能性が高い。また、MOSや防災士などの資格・検定に挑戦する学生が多かったことも、実社会で使える知識・技能(CP1-3)の向上につながったと考えられる。

一方で、2年次以降のデータ登録数が少なく、回答者の偏りの影響を考慮する必要があるものの、概ね履修系統図に沿った体系的な学修が進んでいることが確認できた。今後は、2年次以降の学修評価をより正確に把握するために、回答数を増やすための施策を検討するとともに、1年次での成果を継続的に発展させる仕組みを構築することが求められる。

参考: 各項目の評価基準

CP1-1	実体験に基づく学び	医療機関や企業等での就業を体験し、現場で何が求められるのかを学んでいる
CP1-2	医療やいのちに関する体系的学び	人体の基本的な構造と機能などの基本的知識を学びながら、医療制度・社会保障制度など、私たちの健康を支える社会のしくみと関連づけて学ぼうとしている
CP1-3	実社会で使える知識・技能の修得	各種の技能検定・資格認定のための専門教育を学び、実社会で使える標準的・実践的な知識・技能の習得に努めている
CP2-1	地域に対する当事者理解	福祉ボランティア活動、地域共創活動などに参加し、地域の人々と共に地域の活性化に主体的に関わっている
CP2-2	健康に対する当事者理解	地域における健康増進活動に参加し、健康について実践から学んでいる
CP2-3	対人関係能力の養成	スポーツやサークル活動等の課外活動での、他者との様々な関わりを通して、他者への理解を深め、良好な人間関係の構築に努めている。
CP3-1	心身の調整法・鍛錬法の日常化	禅を体験し、心身の調整法・鍛錬法を体得している
CP3-2	実行力、考察力、課題解決能力の養成	大学生活を通して、継続的にスポーツや文化活動、ボランティア活動、地域貢献プロジェクト等に取り組む、実行力、考察力、課題解決能力を養っている
CP3-3	成長サイクルの日常化	学修ポートフォリオ(マイステップ等)を活用し、自身の活動の振り返りや達成度評価を行うことで、持続的な成長サイクル(PDCA)が身についてきている